

# 令和5年度いじめ防止基本方針

猪苗代町立翁島小学校

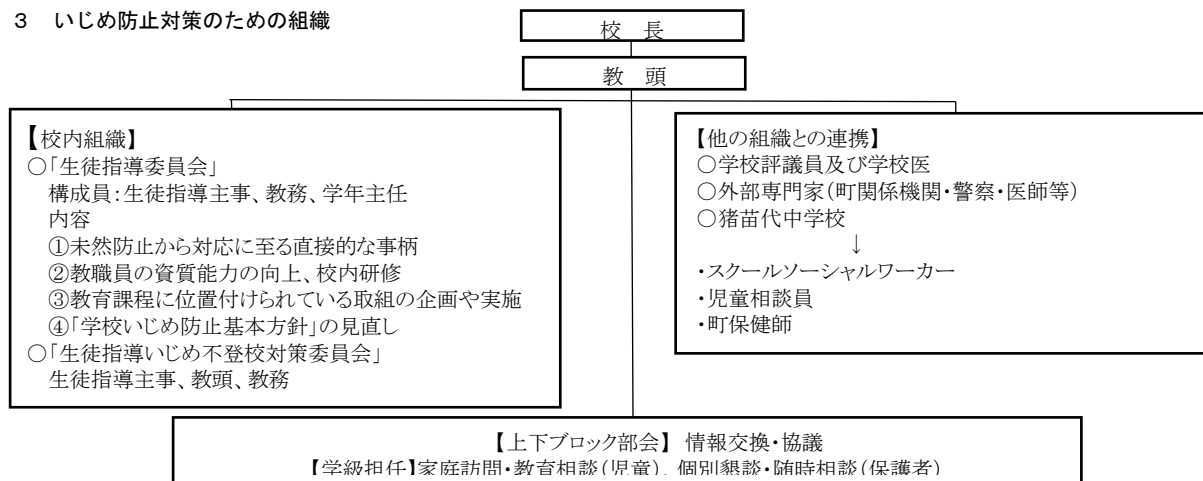
## 1 目 標

- 「いじめ防止対策推進法」における「学校は、いじめ防止基本方針又は地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。」(第13条)の規定を踏まえながら、「いじめは許されない」という理解をもとにいじめのない学級・学校を形成する。
- 「いじめ防止対策推進法」における「いじめ」への対策の意義について十分に理解し、「いじめの絶無・いじめによる心身に及ぼす影響の理解・生命及び心身を保護すること」を中核にした「いじめ対策」に常時取り組めるような校内体制の強化と改善に努める。

## 2 方 針

- 「いじめ対応」に係る教職員の資質・能力向上を図るより具体的な取組や対処方法を年間計画に位置付け、PDCAサイクルを見通した運営及び実施ができるようにする。
- コロナウイルス感染症に関連した誹謗・中傷によるいじめが起こることのないよう予防的指導を充実するとともに、コロナ禍における状況を的確に把握し、指導の充実を図る。

## 3 いじめ防止対策のための組織



## 4 内 容

### (1) いじめの未然防止のための取組

「いじめはどの子どもにも起こりうる」という事実を踏まえ、本校在籍の全児童を対象に、いじめに向かわせない未然防止に取り組む。

- ① 豊かな情操及び道徳心を培い、心の通う人間関係を構築する能力を養うために、道徳教育の充実を図る。
- ② 多様な機会を利用して、保護者に対していじめ撲滅の啓発を行う。(授業参観、家庭訪問、個別懇談、PTA懇談会、学校だより、HP等)
- ③ 様々な場面で、いじめが重大な人権侵害に当たり、刑事罰の対象になることを理解させる。
- ④ 温かい人間関係づくりや児童を見取る目を養うために、いじめ防止対策等の研修会に職員を積極的に参加させる。

### (2) 「いじめ」の早期発見と対応策について

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけ合いを装って行われたりするなど、気付きにくく判断しにくい形で行われることを教職員は認識する。また、児童間の序列化、スクールヒエラルキーの絶無を期するため、児童間を含め学校全体での環境、雰囲気醸成する。これらに基づき、些細な兆候であっても、いじめではないかと疑いをもって、早い段階から的確に関わりをもち、いじめを軽視したり見逃したりすることなく、いじめを積極的に認知するよう心がける。

- ① 年2回、児童対象に「学習相談アンケート」を実施し、教師の目に行き届きにくいいじめの早期発見に努める。
- ② 年2回、Q-Uを実施し、その結果を校内の教職員で共有する場をもつとともに情報をもとに連携する。児童一人一人の理解と対応方法を学級集団の実態をもとに行う。
- ③ 児童対象の「学習相談」、保護者対象の「個別懇談」を実施し、アンケート上では見とれないいじめの早期発見のための相談体制を確立する。
- ④ SNSを通じて行われるいじめについて実態調査を行い、必要に応じて外部講師による講演会等を児童及び保護者対象に行う。

### (3) 「いじめ」対応への具体的措置について

- 発見、通報を受けた場合は、組織を活用し速やかに被害児童を守るとともに、毅然とした態度で加害児童への指導を行う。

いじめの発見に至った場合には、特定の教職員で抱え込まず、「委員会」を中核に組織的に対応する。対応の基本は、被害児童を守り通すとともに、加害児童に対しては、人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。また、これらの対応については、教職員全員の共通理解、保護者の協力、必要に応じて関係機関や専門機関との連携の下で取り組む。

また、教職員全員の共通理解のもと、保護者の協力を得て、関係機関や専門機関と連携して対応に当たる。

また、単なる謝罪をもって安易に解決したと考えず、以下の2要件を満たしているかを常に確認する。

- ① いじめの行為が止んでいる状態が少なくとも3か月継続していること。
- ② 被害児童が心身に苦痛を感じていないこと。

### 【発見・通報からの具体的な対応について】

「いじめ」に関する 主な内容	具体的な対応策の例
-------------------	-----------

いじめ行為の発見・通報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童や保護者の訴えを真摯に傾聴し、児童の安全を確保</li> <li>・いじめ対策委員会との情報共有 (関係児童の事情聴取及び担任・ブロック会等での話し合い等による情報交換)</li> <li>・事実確認結果を校長より設置者へ連絡及び被害・加害保護者への連絡。</li> <li>・いじめが継続される場合は警察署や関係機関との相談</li> </ul>
いじめられた児童、保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への事実関係の聴取：担任ならびに生徒指導主事 ※個人情報の扱い・プライバシーの留意</li> <li>・家庭訪問の実施：担任ならびに生徒指導主事、管理職 ※保護者への事実関係の提示</li> <li>・いじめられた児童へ寄り添える体制づくり</li> <li>・状況に応じて出席停止制度の活用</li> <li>・外部専門家への協力依頼と実践 (心理・福祉の専門家・教員 OB・警察官 OB 等)</li> <li>・アンケート調査の実施による状況判断の厳密化と情報提供</li> </ul>
いじめた児童、保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への事実関係の聴取：担任ならびに生徒指導主事</li> <li>・いじめ確定の場合は、複数教員で専門家・OB の協力を得て組織的に指導及び再発防止措置をとる。</li> <li>・事実関係確認後、保護者の理解や納得を得て協力を求め、保護者への継続的な助言を実施する。</li> <li>・いじめの背景に配慮し、当該児童の人格形成を図る。</li> <li>・当該児童を一定の配慮の下、特別指導計画での指導の実施。※個人情報の取扱、プライバシーへの配慮</li> <li>・いじめた児童の別室指導の展開</li> <li>・出席停止の実施、警察との連携</li> <li>・学校教育法第 11 条による「懲戒」の適用判断 ※教育的な配慮と判断が必要である。</li> </ul>
いじめが起きた集団への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体での話し合いによるいじめ根絶の態度の育成</li> <li>・加害、被害の両児童と他児童との関連でよりよい集団や人間関係を作り上げる活動を展開する。</li> </ul>
ネット上のいじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット上の不適切な書き込みに対しては、即座にプロバイダに削除を求める措置をとる。</li> <li>・法務局や地方法務局への協力を依頼する。児童の生命への危険が及びそうな場合は警察署に連絡し適切な援助を求める。</li> <li>・インターネット使用における児童、保護者への情報モラルの指導と啓発。</li> </ul>

## 5 配慮事項

- (1) いじめへの対応は、全教職員による組織的な指導体制を整えて一致協力しながら行う。
- (2) いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する教職員研修を年間計画に位置づける。担任がいじめに係る情報を抱え込み、報告を行わないことは法の規定に反することを確認する。
- (3) 校務分掌、組織体制については、一部教職員への負担がかからない配慮と適正化を実施し組織を整える。
- (4) 学校（校長）は、家庭や地域と連携し、いじめ問題の重要性の認識を広める。  
例：家庭訪問や学校だよりでの啓発  
PTA や地域諸団体との連携（青少年健全育成、民生委員、防犯協会等）  
学校評議員会での協議

## 6 年間実施計画 別紙

## 7 評価と改善

- 以下の項目を学校評価に位置付け、評価結果を公表し、いじめ撲滅を最優先とした学校運営を行う。

### 【年間指導計画】 ※生徒指導と連携した年間計画

月	生徒指導関係	いじめ防止対策
4	○生徒指導協議会	○個別の相談（年間随時）
5	○校内生徒指導部会の開催（随時） ・当該諸問題における担当者会議	○全校集会「いじめ根絶宣言」校長
6	○家庭訪問	○学習相談アンケート（1 回目） ・必要に応じ個別の対応
7	○Q-U 実施	
8	○夏季休業中の過ごし方等の生活指導の徹底	
9	○夏季休業中の要支援児童の状況確認	
10	○Q-U 分析	
11	○学習相談の実施 全児童を対象とした面談の実施	○学習相談アンケート（2 回目） ・必要に応じ個別の対応
12	○Q-U 実施 ○個別懇談 全保護者を対象とした面談の実施	
1	○冬季休業中の過ごし方等の生活指導の徹底	
2	○Q-U 分析	
3	○冬季休業明けの児童状況把握	
4	○学年末休業中の過ごし方等の生活指導	
5	○年間実施計画の見直しと改善 ・教育課程編成会議等による担当者会議	